日本語学史　　清川

１　時代区分

日本人による研究

第１期前半	明治以前　契沖（１６４０～１７０１）以前
第１期後半	明治以前　契沖以後
第２期	明治以後

外国人による研究

（１）キリスト教布教のためのキリシタン宣教師の研究
（２）鎖国期のオランダ系の研究
（３）開国期以後の英米を中心とする研究

２　日本人による研究

（１）第１期前半

A 漢文漢字との接触による日本語研究

・「篆隷万象名義（てんれいばんしょうめいぎ）」空海撰（９世紀前半）

・「新撰字鏡（しんせんじきょう）」（完成版８巻８９８～９０１）
　昌住（しょうじゅう）撰

・「和名類聚抄（わみょうるいじゅしょう）」源　順（みなもとのしたごう）編纂

・「類聚名義抄（るいじゅみょうぎしょう）」（平安末期）

・「色葉字類抄（いろはじるいしょう）」（２巻本１１６３～１１６５）（３巻本１１７７～１１８１）（１０巻本　鎌倉初期）

・「下学集」（げがくしゅう）「節用集」（室町中期）

B 古典解釈に伴う日本語研究

・「釈日本紀（しゃくにほんぎ）」（鎌倉中期）卜部兼方（うらべかねかた）

・「万葉集注釈」（１２６９）仙覚

C 歌学、連歌（れんが）のための「てにをは」研究

・「手爾葉大概抄」（てにはたいがいしょう）テキスト P160

・「姉小路式」（あねがこうじしき）

（２）第１期後半
・「下官集」藤原定家

・「仮名文字遣い」行阿撰
・「万葉代匠記」契沖

・「和字小濫抄（わじしょうらんしょう)」（契沖）（１６９５）

・「古言梯（こげんてい)」楫取魚彦（かとりなひこ）（１７６５）

・「てにをは紐鏡」本居宣長（１７７１）
「詞玉緒（ことばのたまお)」（１７７９．１７８５）

・「かざし抄」富士谷成章（ふじたになりあきら）（１７６７）
「あゆひ抄」

・「活語断続譜」鈴木 朖（すずきあきら）（１８０３年頃成る）
「言語四種論」（１８０３年頃）

・「詞八衢（ことばのやちまた)」本居春庭（１８０８）
「詞通路（ことばのかよいじ)」（１８２８）

・「山口栞」（東条義門）とうじょうぎもん（１８３６）
・「辞玉襷（ことばのたまだすき)」（富樫広蔭とがしひろかげ）（１８２９）
「詞玉橋（ことばのたまはし)」（１８２６）

（３）第２期　明治以後

・田中義廉（よしかど）「小学日本文典」（１８７４）

・中根淑（きよし）「日本文典」（１８７６）
・上田万年（かずとし）

・大槻文彦（おおつきふみひこ）「広日本文典」（１８９７）

・山田孝雄（よしお）「日本文法論」（１９０８）
　「日本文法学概論」（１９３６）

・松下大三郎「日本俗語文典」（１９０１）
　　「標準日本口語法」（１９３０）

・橋本進吉「国語法要説」（１９３４）

・時枝誠記（もとき）「国語学原論」（１９４１）
　「日本文法口語篇」（１９５０）
　入れ子型　テキスト P191

・三上章（みかみあきら）「現代語法序説」（１９５３）
　　「象は鼻が長い」（１９６０）

・渡辺実（わたなべみのる）「国語構文論」（１９７１）

・久野暲（くのすすむ）「日本文法研究」（１９７３）

３　外国人による研究

（１）キリシタン宣教師の研究
・アルバレス　天草版「ラテン文典」（１５９４）

・イエズス会宣教師　「日葡辞書」（１６０３，１６０４）

　　スペイン語訳「日西辞書」（にっせい）（１６３０）
　　フランス語訳「日仏辞書」（にちふつ）（１８６２～１８６８）
・ロドリゲス「日本文典」（１６０４～１６０８）
　　「日本小文典」（１６２０）
・コリャード「日本文典」（１６３２）
・オヤングレン「日本文典」（１７３８）
・キリシタン版漢字辞書「落葉集」（らくようしゅう）（１５９８）

（２）オランダ系の研究
・シーボルト「日本語要略」（１８２６）

・クルチウス「日本文典例証」（１８５７）

・ホフマン「日本文典」（１８６８）

（３）英米系の研究
・オルコック「初学用日本文法要説」（１８６１）

・ブラウン「日本語会話」（１８６３）

・ヘボン「和英語林集成」（１８６７、１８７２、１８８６）

・アストン「日本口語小文典」（１８６９、１８７１、１８７３）
「日本語文語文典」（１８７２、１８７７、１９０４）
・チェンバレン「簡約日本文典」（１８８６）
「日本小文典」（１８８７）

・ブロック「ブロック日本語論考」（‘７０）
・ヴェンク「体系的日本語統語論」（１９７４）